

古利根の流れ

松伏町は多くの川に囲まれています。普段は穏やかな川も大雨が降ると一変します。9月には鬼怒川の堤防決壊があり、越谷や松伏も浸水被害が多く発生しました。古利根川や元荒川と何気なく通っているのにいざ災害があると渋滞や不通となり、川の重要性に気づかされます。

洪水対策の切り札として、春日部市（旧庄和町）の地下に首都圏外郭放水路ができました。大雨で処理できなくなった水は地下トンネルを通じて江戸川に流すもので現代の地下神殿ともいうべき巨大な地下空間の設備です。

もう1つ江戸川を下ると野田に運河があります。正式名称は「利根運河」で江戸川と利根川を結ぶ約9キロの人工河川です。こちらは洪水対策ではなく交通対策で造られたものです。鉄道のない時代大量輸送は船でした。江戸川も利根川も盛んに船の往来があり、千葉の銚子の方から都内へ行くのに関宿まで上って江戸川に入って来るルートを短縮するために運河が造られました。明治23年に完成した工事では東京ドーム1半分の土を掘ったのです。機械のない時代先人たちの苦勞が偲ばれます。そしてこの運河も大正になると鉄道輸送に変わり、船は不要となってしまいました。

恒久的な洪水対策としてスーパー堤防が計画されていますが、全ての河川をスーパー化することは不可能です。できることは気象、災害等の情報をいかに早く正確に届けることや情報の受け手の我々自身が避難訓練などで災害に備えることではないでしょうか。

（三瓶 修次郎 記）